

景観をつくり、まもり、はぐくみ、
次の世代へつないでゆく

第2回 ここに残るまち景観



時を越えて
(春木中学校の赤レンガ塀)



北町 寺町筋



本町のまちなみ



岸城町 十六軒長屋



岸城町 マンサード長屋



元旦の朝日に映える
岸和田城



宮本町 城見橋への道



泉光寺と桜



阿間河滝町 長屋門坂



夕暮れの北阪

市では、景観啓発の取り組みとして、「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」を平成24年度から毎年実施しています。
今年度は「まち景観」をテーマに募集し、多数の応募をいただきました。
その中から特に優れた10件を「ここに残るまち景観」に指定しました。
指定景観資源は、これまでの樹木15件、みち21件、水辺15件およびまち9件を含め、計70件になりました。
「ここに残るまち景観」

市では、景観啓発の取り組みとして、「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」を平成24年度から毎年実施しています。

の場所は、市地図情報配信サービスで確認できます。
問合せ 都市計画課景観担当
(☎ 423・95338)

地図情報配信サービスはこちら



シティセールスマガジン

問合せ 広報広聴課シティセールス推進担当 (☎ 423 - 9653)

昨年9月から11月にかけて、市公式インスタグラム上で開催したフォトコンテスト。たくさんのご応募ありがとうございました。

応募総数674点の魅力的な作品の中から厳正な選考を行った結果、最優秀賞に輝いたのは、t.ari373さんの作品でした。全6点の入賞作品は今後、本市の魅力発信に活用させていただきます。

作品の一覧は、インスタグラムでご覧いただけます。

「見たい」「行きたい」と思える岸和田の写真が撮れた際は、ぜひ、インスタグラムに「#岸和田 MODE」を付けて投稿してくださいね。



アーティスト以外の何者にもなりたくなかった。

挑む出身地・岸和田での個展。作品に込めた思いを伺った。

「市内の小学生に「大切なもの」を紙に描いてもらい、それらを赤い糸でつなぐことで「人と人のつながり」を表現しました。作品を通じ、訪れた子どもたちの将来の選択肢に「作家」が加わると嬉しいです」

最後に、アーティストに必要な資質について尋ねてみた。「芸術以外で生きられない。他を器用にこなせない(不器用さ)が必要だと思います」

迎えた個展初日。多くの観客の前でたどたどしく言葉を紡ぐ彼女を見て、思った。

なるほど、不器用だなあ。



塩田 千春さん(47歳 岡山町)

アーティスト。東京・森美術館で開かれた個展「塩田千春展:魂がふるえる」は延べ66万人強を動員し、同館歴代2位の入場者数を記録。現在はベルリン居住だが、心のふるさとには久米田池。中学校時代の部活はソフトボール部。



「昔から絵が大好き。近所の絵画教室に通う中で、芸術の世界で生きていきたいと強く思うようになって」

森美術館での大成功を経て